

- 1 教育事業名 「のびのび自然体験 in とかしき」
- 2 ね ら い 体験活動を通して、母と子との絆を深め、子ども達のたくましい心と体を育むとともに、基本的な生活習慣、自立的行動習慣の確立につなげる。また母親については子どもの自己肯定感を高めるための子どもとの接し方を学ぶ。
- 3 期 日 令和5年10月14日（土）～15日（日）1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 沖縄県内の母子寡婦生活支援センター所属の親子15家族及び職員50名程度
- 6 参加人数 12家族34名
- 7 参加者内訳 未就学児1名、小学生20名、中学生1名、保護者12名
- 8 講師 ワークショップ（座談会）担当
 - ・保里 恵利美 氏（ママの元気サポーター）
 - スノーケリング活動担当国立沖縄青少年交流の家
 - ・森 有紀子 氏（ネイチャーワークス NPO 海の自然史研究所）

9 実施プログラム

10月14日（土）	9:00	10:00	11:30	12:00	13:00	16:00	17:00	17:30	19:00	19:30	21:00	22:00
	受付 チケット職員から配布乗船	フェリーにて泊港出航	海研場移動	入村 オープニング	昼食	海洋研修 ・大型カヌー ・水泳・カヤック ・スノーケリング	本館移動 入所オリエンテーション	夕飯のつどい 夕食・入浴	ふれあいレクリエーション	（親）ゆんたく会 （子）創作活動	入浴 就寝準備	就寝
10月15日（日）	6:00	7:00	9:00	10:00	10:30	13:00	14:30	15:30	16:40			
	朝食	朝のつどい	清掃 清掃チェック	所内散策	海研場移動	野外炊事 （カレーライス）	クラフト作成	清掃	エンディング	渡嘉敷港移動 乗船	フェリーにて渡嘉敷港出航	お別れ会にて解散

10 事業の様子



海洋研修（オープンカヤック）



海洋研修（スノーケル）



母と子でレクリエーション



ワークショップ（母親）



メッセージカード贈呈



所内散策



野外炊事（調理）



野外炊事



クラフト（貝殻フォトフレーム）

1 1 エピソード（参加者の声、アンケートより）

【参加者の声】

①事業全体を通して

- ・子どもがのびのびとお友達と沢山楽しい遊び、スノーケリングやカヤックの初体験の出来、私も現実から離れた時間を持てました。
- ・ワークショップ、レクリエーションなどもあり、普段みられない子の姿がみられたのでよかった。また協力することで絆が増した。
- ・自然とふれ合う野外料理、親と子別々のプログラムもありよかった。

②海洋研修について

- ・水泳もスタッフの方がサポートしてくれた、お母さんとしては海に入りたかったが、次回のおたのしみにしたい。
- ・いつも1人でつれていくのが大変で避けていたけど安心して参加できた。

③ワークショップ（母親対象）について

- ・自分を好きになることを教えてくれてありがとうございます。
- ・学びたかった事が体験できてうれしかったです。
- ・少人数であったため、リラックスして過ごせた。
- ・改めて自分をふりかえることができた。
- ・もっと母同士話す時間がほしかった(フリーで)。

③「メッセージカード作り」（子ども達から母親へ）について

- ・普段子ども達の本音を聞けないのでとってもうれしかったです。
- ・すなおにうれしかった！大切にします。
- ・サプライズ！とても嬉しかったです。宝物にします。

⑤野外炊事について

- ・外で作り、食べるすべての工程が楽しかった。
- ・片付けまでグループで協力できたので、子どもたちどうし成長を感じた。
- ・みんなで作ったカレーはやっぱりおいしい！

⑥クラフト作成について

- ・子ども達とどの貝殻にする？と話したりかんがえたりと楽しく作成できました。
- ・写真まであり、楽しく作れて思い出になりました。

1 2 担当者所見

（1）成果

今回の事業では、事業全体についての感想で、全ての母親が満足群というアンケートの結果が得られた。ねらいの「母と子の絆を深める」、「たくましい心と体を育む」、「基本的な生活習慣、自立的行動習慣の確立につなげる」、「子どもの自己肯定感向上に向けてどのように子どもと接すればいいのかを学ぶ」については、親子で楽しく自然体験活動や野外炊事、クラフト作りに取り組む様子やワークショップでの母親同士の交流などから十分に達成できたと思う。また、子ども達が終始笑顔で活動している様子から渡嘉敷島の素晴らしい自然を満喫し、母親の愛情を体いっぱいを感じながら楽しくのびのびと過ごせたのではないかと考える。

（2）課題

- ・天候の不良により、海洋研修のプログラムを一部変更した。プログラムの変更等があっても参加者に充実した内容になるように、事前の計画をより深める必要がある。
- ・今回は事業に協力してもらえるボランティアの確保ができなかった。親子に安心して活動に参加してもらい、より満足度の高いプログラムを実施する為にも、ボランティアを確保する必要がある。